第4回市民憲章等審議会 要約会議録

1 開催日時：平成20年9月26日（金） 午後2時開会 午後4時3分閉会

2 場 所：天草市役所 庁議室

3 出席者：

委員 荒木会長、高田副会長、洲崎委員、河内委員、濱本委員、荒平委員、松本郁子委員、永田委員、仁田委員、大塚委員、連尾委員、松本英二委員、上委員
（欠席者 橋口委員、谷委員）

事務局 金子企画部長、濱企画課長、福田課長補佐、小川企画調整係長、松下主任

4 内 容：1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

(1)市のシンボルの選定について

(2)市民と行政の協働指針（素案）について

(3)その他

4 閉会

5 会議の概要：

(1)市のシンボルの選定について

- ・原則として、市民の応募数も反映させた委員の評価結果に基づき、各シンボルを決定する。
- ・評価結果の上位で評価点数が接近しているものがある場合は、委員の意見を加味してシンボルを決定する。
- ・花は「はまぼう」に決定する。
- ・木は「あこう」に決定する。
- ・鳥は「かもめ」に決定する。
- ・魚は「たい」に決定する。
- ・その他のシンボルは、1つだけとは限らず、複数を選定することも念頭に、次回の審議会で決定する。
- ・その他のシンボルの項目名は、次回の審議会で決定する。

〈主な意見など〉

（委員）

○評価結果には、市民の応募数や各委員の採点が反映されており、評価点が最も高かったものをそれぞれのシンボルとして決定すべきである。

(委員)

○評価点数が接近している場合は、再度審議して、天草市のシンボルとして最もふさわしいものを決定すべきである。

(会長)

○評価点が最も高いものをシンボルの第一候補としてするが、付帯意見として第二案や委員の意見を添付する形で答申してはどうか。

(委員)

○審議会の役割として、各項目ごとに1つのシンボルを選定して答申すべきである。

(委員)

○花については、市民からの応募数も多く、各委員の評価も高いことから、「はまぼう」に決定する。

(委員)

○木については、「かし」が住民の応募数も多く、「かしの実餅」など住民の生活とのかかわりもあるが、全国各地に植生している。天草という地域の特性をより表すという評価項目を重視すれば、「あこう」がシンボルとしてはよりふさわしいと思われる。

(委員)

○木についての審議会における多数決の結果は、「あこう」9票、「かし」4票、「さくら」0票。

(委員)

○鳥については、「めじろ」が住民の応募数が最も多いが、山間地にも生息している。天草という地域の特性をより表すという評価項目を重視すれば、「かもめ」がシンボルとしてはよりふさわしいと思われる。

○鳥についての審議会における多数決の結果は、「かもめ」5票、「めじろ」3票、「とび」3票、「うぐいす」2票。

(委員)

○魚についての審議会における多数決の結果は、「たい」8票、「たこ」5票。

(会長)

○その他のシンボルについては、「いるか」は評価点が圧倒的に高いため、シンボルとして決定する。

(委員)

○その他のシンボルについて、例えばハイヤのルーツは天草市牛深地区であるなど、天草市らしさをもっている候補については、1つだけに限ることなく、シンボルとして決定してもよいのではないか。

(委員)

○その他のシンボルについて、多くのシンボルを決定するより、2つに絞って決定した方がPR活動などが行いやすいのではないか。

(委員)

○その他のシンボルの項目名は、「宝」、「夢」、「夢箱」、「天草市民の〇〇」などはどうか。

(2) 市民と行政の協働指針（素案）について

- ・住民に分かりやすく、住民の興味を引くような内容に修正する。
- ・委員が協働を実践しているなかで、必要なルールや体制、組織整備などを考えながら、次回の審議会で指針の内容を再度検討する。

〈主な意見など〉

（会長）

○まちづくりを進める際の行政と市民のかかわり方のルールづくりを進めることが、協働指針作りになる。

（会長）

○現実にさまざまな団体が協働を実践しているが、その中での組織構成やメンバーの募集、意思決定の方法、運営のルールなどを分析することで、協働指針ができあがる。

（会長）

○住民に分かりやすい表現、とらえ方、展開のしかたで作成したほうが良いのではないか。

（会長）

○自分なりに協働を実践するうえで、必要なルールや体制、組織整備などを考えて指針を検討すれば、積極的な議論を交わすことができるであろう。

(3) その他

- ・市民憲章の制定については、第4回審議会終了後、第2回小委員会を開催する。
- ・次回の審議会は11月4日（火）に開催する予定。